

■安曇野の銘酒を目指し 連携深める



共通ブランド「あづみの酒」をPRする酒造業者

の字が特徴的な共通ロゴなどが発表されました。

参加したのはE H酒造（安曇野市）、大雪溪酒造、福源酒造（池田町）の3蔵。松川村を含めた3市町村の酒米を使用し、安曇野ブランドを代表する商品として台湾やマレーシアなどに売り出します。

現在も各蔵で輸出を行っていますが、全体に占める割合は低く、「あづみの酒」によって輸出拡大を図り、酒米の生産拡大や地域の農業振興などに繋がります。本事業には地方創生推進交付金を活用しており、今後はPR動画の作成も行う予定です。

大雪溪酒造の薄井結行専務は、「地域で連携し、世界に安曇野の日本酒をPRしたい。酒米の生産者のモチベーション向上にもつながる取り組みにしていければ」と期待を述べました。

安曇野の魅力を 全国に発信



安曇野市長 宮澤宗弘

安曇野市の基幹産業である農業は、米、リンゴ、ワサビ、タマネギをはじめとする美味しい農産物の生産と、観光資源でもある清冽な地下水、拾ヶ堰、北アルプスの裾野に広がる美しい田園風景の保全に欠くことのできない役割を担っています。一方で生産者の高齢化と後継者不足など、農業を取り巻く環境は大きく変化しています。諸課題に対応するため、持続可能な稼ぐ農業を目指し、農地の集積や担い手の育成に努めるとともに、ワイン・日本酒・地ビールといった付加価値の高い特産品の開発を支援してまいります。行政はサポート役・調整役として、安曇野の特長を生かしたブランドづくりを皆さまと共に進めてまいります。

北アルプス安曇野ワインバレー 特区が認定

国の構造改革特区として「北アルプス・安曇野ワインバレー特区」が認定され、池田町、大町市、安曇野市による合同記者発表会が4月11日、池田町創造館で行われました。記者発表では、3市町で連携して生産技術を向上させ、特区内で生産されたワインのブランド化への展望などが発表されました。

特区の認定により、ワインやシードルなどの製造免許取得に必要な年間6klの最低製造数量が2klまで緩和されます。これ

により、小規模ワイナリーの参入促進が図られ、新しい雇用の創出や産業振興の活性化などが期待されます。ワイナリーは現在、安曇野市に2カ所、大町市に1カ所ありますが、今後5年間で6つのワイナリーの開業が見込まれています。

市では、明科天王原地区で耕作放棄地等を活用したワイン用ぶどうの生産が拡大されており、産地形成に向けた取り組みが進められています。宮澤市長は「地域の新たな特産品となることを期待するとともにワイナリー経営を目指す農業者の支援を考えたい」と述べました。

安曇野産ホップで地ビールを

安曇野産ホップの育成事業は平成28年度の試験栽培開始から本年度で3年目を迎えます。これまでホップ株の生育を優先し、収穫も最小限にとどめてきましたが、岩手県遠野市からも技術支援に協力をいただき、いよいよ本年度から本格的な収穫期を迎える予定です。安曇野産ホップを活用し、地域特産で付加価値の高いクラフトビールの製造に向け、市では農商工連携のモデル事業として、今後も支援を続けていきます。

また、本年度より3年間、地



ホップを収穫する生産者

域おこし協力隊を採用し、栽培技術や製造技術の取得とビールを基軸とした地域活性化策にも取り組む計画です。

市政トピックス

■たつみ認定こども園

たつみ認定こども園（豊科）建設工事の起工式が4月13日、現園舎北の新園舎建設地で行われました。当日は、地元民生児童委員や施工者など約70人が出席し、宮澤市長は、「多様な保育ニーズに応えていきたい」とあ

起工式

いさつしました。

同園は建設から36年が経過していることから、隣接地に移転新築を行い、現園舎は園庭や駐車場として整備されます。

施設は鉄骨造平屋建て、延べ床面積約1251平方メートル



完成イメージ